

御本社玉垣事業 第二期竣工

令和の御即位記念事業として進めて参りました、神山町の当宮御本社玉垣建立事業ですが、令和三年が当宮主祭神の嵯峨天皇さまが行幸されて一千二百年という慶節であった事から一旦第一期分として竣工奉祝祭を執り行いましたが、無記名の玉垣が二十四基残ったままとなっておりまして。

引き続きコロナ禍に加え、ロシアの戦争による物価高など、世情厳しくなる中、事業の長期化を懸念しましたが、その後、ご篤志の氏子崇敬者の方々から、お一人、またお一人とお宮をお支えしたいというお声を頂戴し、有り難くも先月二十五日に無事、玉垣建立事業第二期分の竣工奉祝祭を斎行する事が出来ました。

当日は、予報では雨天でしたが、晴れとなり、また嵯峨天皇さまゆかりの桜も満開と、大神さまへの尊崇の誠が通じたのかと思えるような雰囲気でありました。

鎌倉時代の『御成敗式目』の第一条には「神は人の敬により威を増し、人は神の徳により運を添う」とあります通り、美々しく建ち揃いました石玉垣は、コロナ禍という未曾有の困難の中、お宮を支えた氏子崇敬者の方々の思いを受け、大神さまの御稜威を更に増し、氏子崇敬者皆様への御開運へと繋がる事と思えます。

この度の石玉垣建立事業に御奉賛を頂きました皆様には、大変厳しき世情の中、御奉賛の誠をお捧げ頂き、誠に有難う御座いました。

光定戒牒 下賜 一千二百年

当宮主祭神の嵯峨天皇さまが、天台宗最澄の高弟、光定に戒牒を下賜して今月十四日で一千二百年となります。戒牒とは国家公認の僧侶の身分証で、最澄亡きあと、光定の為、嵯峨天皇さま御自ら宸翰を与えられました。現在、確実に嵯峨天皇さまの書として認められるものとしては貴重なもので、麻紙の縦簾紙に欧陽詢、空海の書体を巧みに取り入れられ破体書で書かれ、光定は「雄筆奇妙・奇世靈珍」と讃えています。まさに三筆筆頭の名筆です。現在は比叡山延暦寺が保管し、国宝に指定されています。

御旅社石鳥居 建立百五十年

茶屋町の当宮御旅社の正面にある石鳥居は、明治六年（一八七三）四月に奉納されたもので、今月でちょうど建立から百五十年となります。

当時は大阪駅が開業する前年で、この鳥居が建った頃の梅田はまだ何も無い菜の花畑が広がる土地でした。街は変わっていつにいつにありますが、石鳥居は百五十年間変わらず、御旅社の神域の境を守り続けています。

道真公 冤罪晴れて一千百年

延長元年（九二三）四月二十日、当宮の御祭神、菅原道真公に被せられた無実の罪が冤罪と認められ、左遷の詔書が焼かれ、右大臣に復位し、正二位を追贈されてから今月二十日（火）でちょうど一千百年となります。公的に国が過ちを認め、また道真公の神威を認めた瞬間ともいえ、天神さまをお祀りする神社では特別な日とされています。

コロナ禍の対応について

来月八日に、コロナが感染症分類二類から五類へと移行される見込みです。これを受け、お賽銭箱の鈴緒撤去、手水舎の柄杓撤去、本殿内マスクなどの当宮で執り行っておりました規制も五月八日より解除させて頂く予定です。

今月の暦

【御旅社授与所(茶屋町) 御朱印平日受付日】
四月二十五日(火) 十三時〜十七時の予定

【祭礼】 神武祭三日…神武天皇崩御の日 神事のみ
明祭廿日…道真公の冤罪が晴れた日 神事のみ

【節気】 清明(五日)…気候明るく清々しい頃
穀雨(廿日)…田畑の準備が整い春雨降る頃

【雑節】 春の土用(四月十七日〜五月五日) 土掘りは遠慮

【大安】 四月六日、十二日、十八日、廿二日、廿八日

【朔望】 満月(六日)、下弦(十三日) 朔月(廿日)、上弦(廿八日)、

【祝日】 昭和の日(廿九日)、

【旬】 【野菜】 タケノコ、そら豆、山菜類、アスパラガス、甘藍
【果物】 イチゴ、甘夏、ビワ(ハウス栽培)
【魚介類】 鯛桜鯛、サヨリ、シラス、ハマグリ(地蛤)、赤貝
【その他】 桜の花、牡丹、百合、花水木、桐の花

網敷天神社 SNS、地図サイト

Twitter
Facebook
当宮地図 Google MAP

編著 網敷天神社 補宜(御旅社 神主)
白江 秀 知